

## ”BCP”の考え方

グリーンアルス伊丹 事務長 塩田眞一郎

2年前の未曾有のクラスター、感染者の予想不能な病状、収益の急減、マスコミ・行政のデマで助長された誹謗中傷・差別と職員の動揺、幾多の障害からどう事業継続を果たせたか、役立つBCPとは、

### 構成

- ・BCPとの出会い
- ・序章
- ・クラスター現場の分析から確信した感染対策
- ・感染者の現実
- ・事業所休止の重み
- ・誹謗中傷・差別の実際と本質---誰でも加害者と被害者になる
- ・捨てる神ありや拾う神あり
- ・2年経過した施設の現状
- ・BCP---何が必要か考えることから始まるが、考えすぎず、踏み出してみて、進化させる。
- ・最後に

### ・BCPとの出会い

20年くらい前に私が初めて聞いたBCPは、Business Continuity Planningと表されていました。現在、多くはBusiness Continuity Plan (事業継続計画)と表されていることが多いと思いますが、当時ingになっていたことで事業継続させるためには『計画し続けること』と理解した記憶があります。さて、老健を含む介護事業においてはどうでしょうか。基本的には事業が直面する脅威はどの業種も同じと考えますが、老健のような国策事業は、運営による倒産リスクは若干低いかもしれません。但し、昨今の甚大な自然災害や未曾有の集団感染は、業種に関係なく命も組織も蝕み大きな被害を与えます。その対策としてBCPが必要と言うのが今回の趣旨と捉えています。

**BCPは、事業者トップにとっては、義務化されようがされまいが必要なこと、、、**

## ・序章

令和2年3月8日午前9時、携帯に施設からの電話が入った。日曜日の電話に嫌な予感がした。

事務員から「留守電に保健所からデイケア利用者で新型コロナウイルスの感染者がでたので

利用状況を確認したいので連絡が欲しい。」との一報。考え得る感染防止策は講じてきていたので、

正に青天の霹靂であった。施設長・デイ主任に連絡を入れ施設へと向かった。報告を聞くと

3月初旬にご利用された方の感染と言う事であった。その方は、利用当日体温36.9℃、諸症状無く

1日変わりなく過ごされている。但し、ご主人が体調不良で心配だとおっしゃっていた。

その方は最終利用日の2日後に体調不良で病院へ行くので休むと連絡がありその日の内に入院

されていた。つまり、無症状の方が2日で体調不良を訴えられそのまま入院となり残念ながら

10日後に死亡。そして先に、体調不良であったご主人もその後感染が確定し翌日死亡。

無症状から、悪化すればあっという間に重篤になってしまう。今となっては、

皆様をご存じのことであるがその急変ぶりにウイルスの脅威を実感した。

#### ・クラスター現場の分析から確信した感染対策

当時、クラスターが発生したダイルームでの発生現場を検証した結果、喚起状況の悪い奥側で感染を拡大させた可能性を見出した。

その後、教室方式の配席や、ソーシャルディスタンス確保、常時喚起、冬場に備えて大型オゾン空気清浄機などのコロナ対策を行っていった。

#### ・感染者の現実

基礎疾患(糖尿病等)のある方が、無症状から一気に重篤化することが顕著にみられた。

軽症者は大したことが無いようにも扱われていますが、倦怠感や味覚障害が半年1年と続く例も見られた。

無症状者は、あまり健康変化は見られなかったが精神的に受けたダメージで体調不良を引きずる人もいる。

#### ・事業所休止の重み

ご利用者様達にとっては、入浴をはじめとする日常生活に支障をきたす。ご家族にとっても、仕事に支障をきたすようになる。

事業所としては、休止は収益がゼロになるのは当然のことであるが、費用は概ね同じだけ発生するので一気に、キャッシュが減っていく。そして再開後も、再感染を防ぐためにも定員の削減を行ったり時短利用も増え思うように収入は戻らない。当然、再開をためらうご利用者様もおられ大きくダメージを受ける。

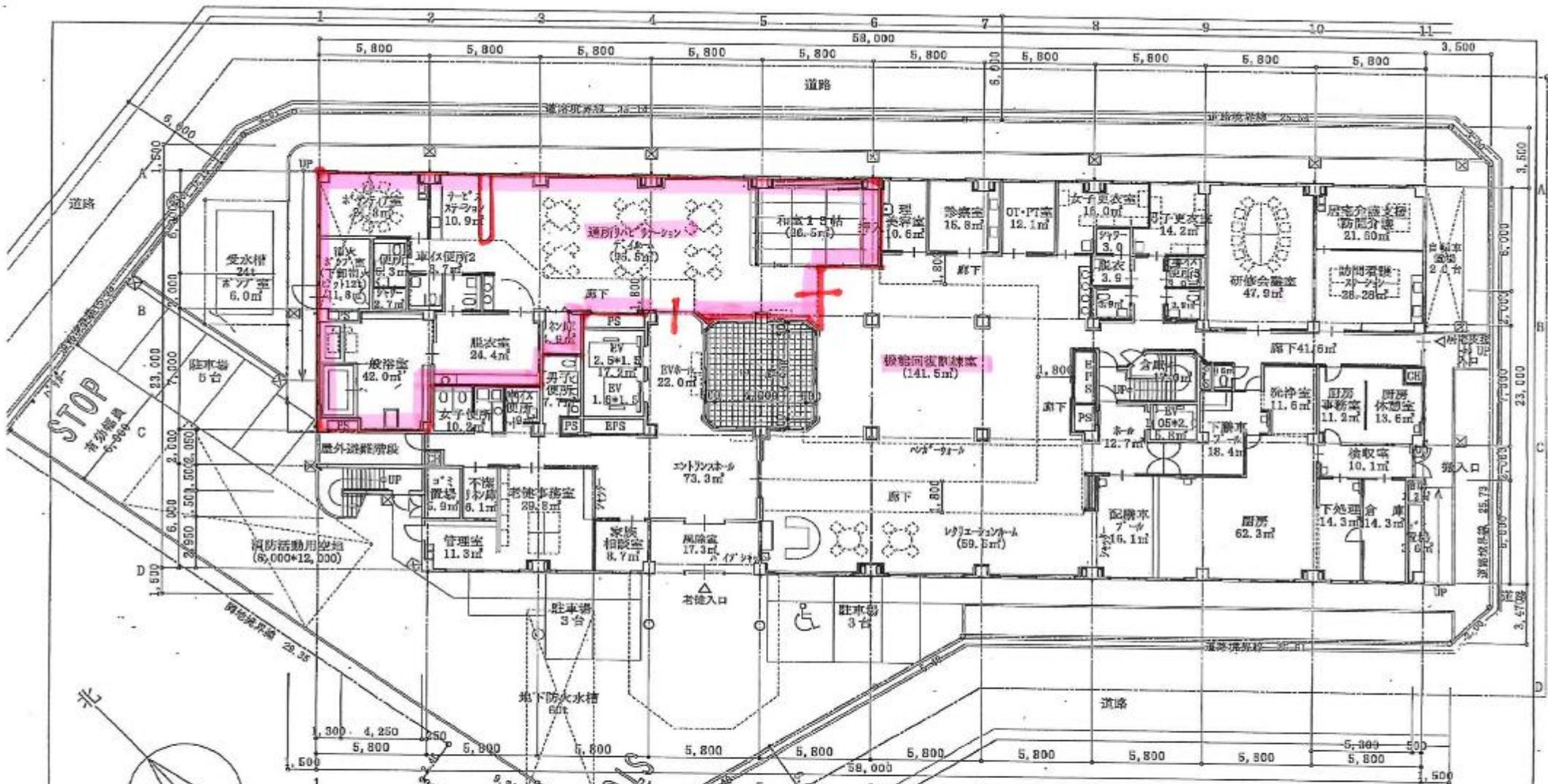
休めば収益減、再開しても匿名メールで金の亡者と言われた。

#### ・誹謗中傷・差別の実際と本質——誰でも加害者と被害者になる

先ず、筆頭は新聞・テレビの無責任報道に悩まされる。前後の脈絡を切り取って全く違う事実にしてしまう。

そして、残念なのが行政の対応です。最も酷かったのは味方だと思っていた市役所からは徹底した差別を受けた。それらを通して、全く関係の無い一般市民からも誤解を受け誹謗中傷の嵐に直面します。

発生直後にマスコミに対応することは全く無意味です。文書を出しても、そのまま使用されることはなかった。



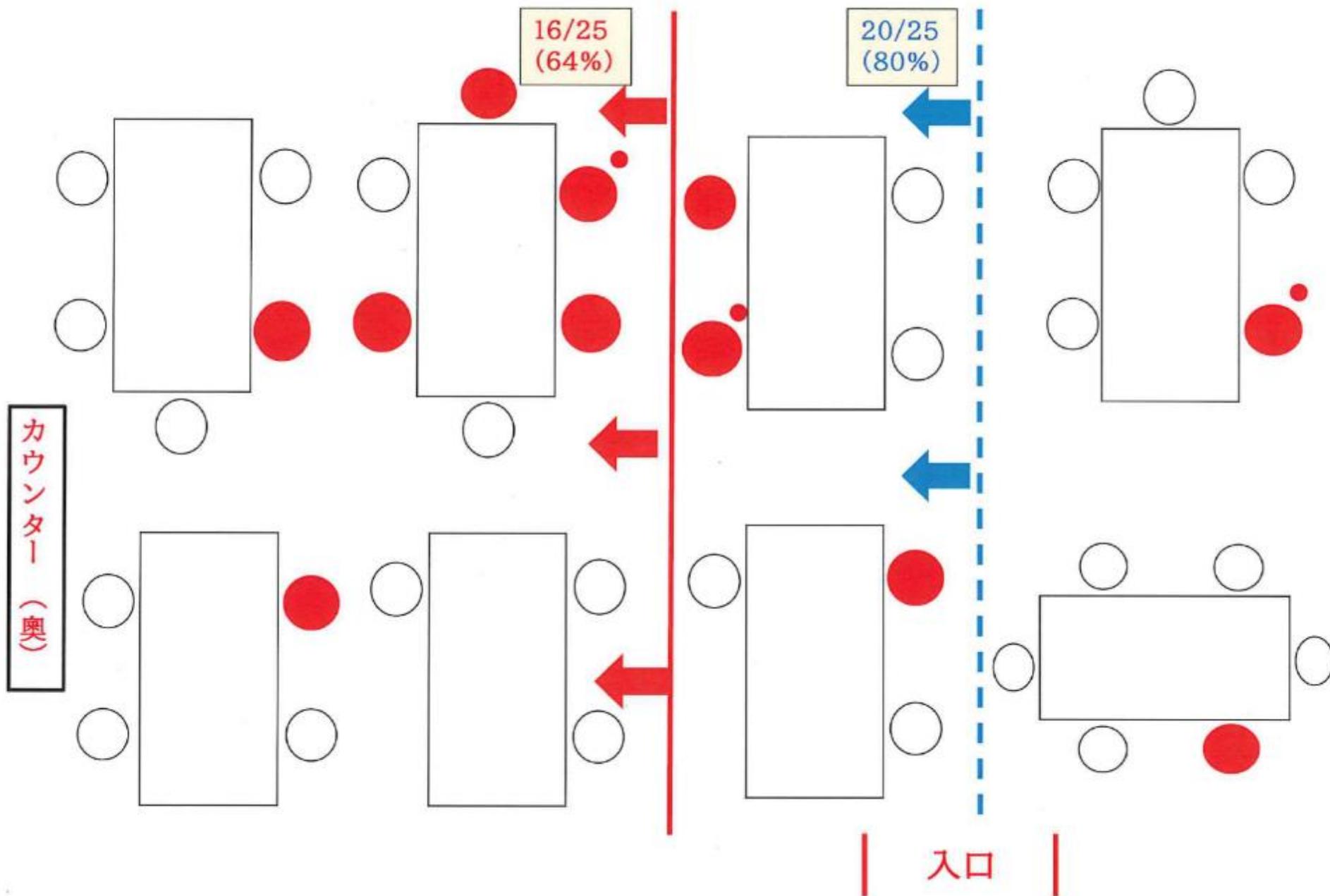
敷地面積	2371.16㎡ (717.27坪)
延床面積	4301.24㎡ (1301.12坪)
	181% (残441.08㎡・133.42坪)
1階床面積	1274.63㎡ (386.57坪)
建築面積	1402.26㎡ (59.13%)

(株)豊建築設計事務所 072-751-8316	作成	2006年 3月 24日	介護老人保健施設 グリーンアルス伊丹	図面NO. <b>1</b>
	項目	配置図		
配置図・1階平面図				

2月24日(月)

ダイルーム席表

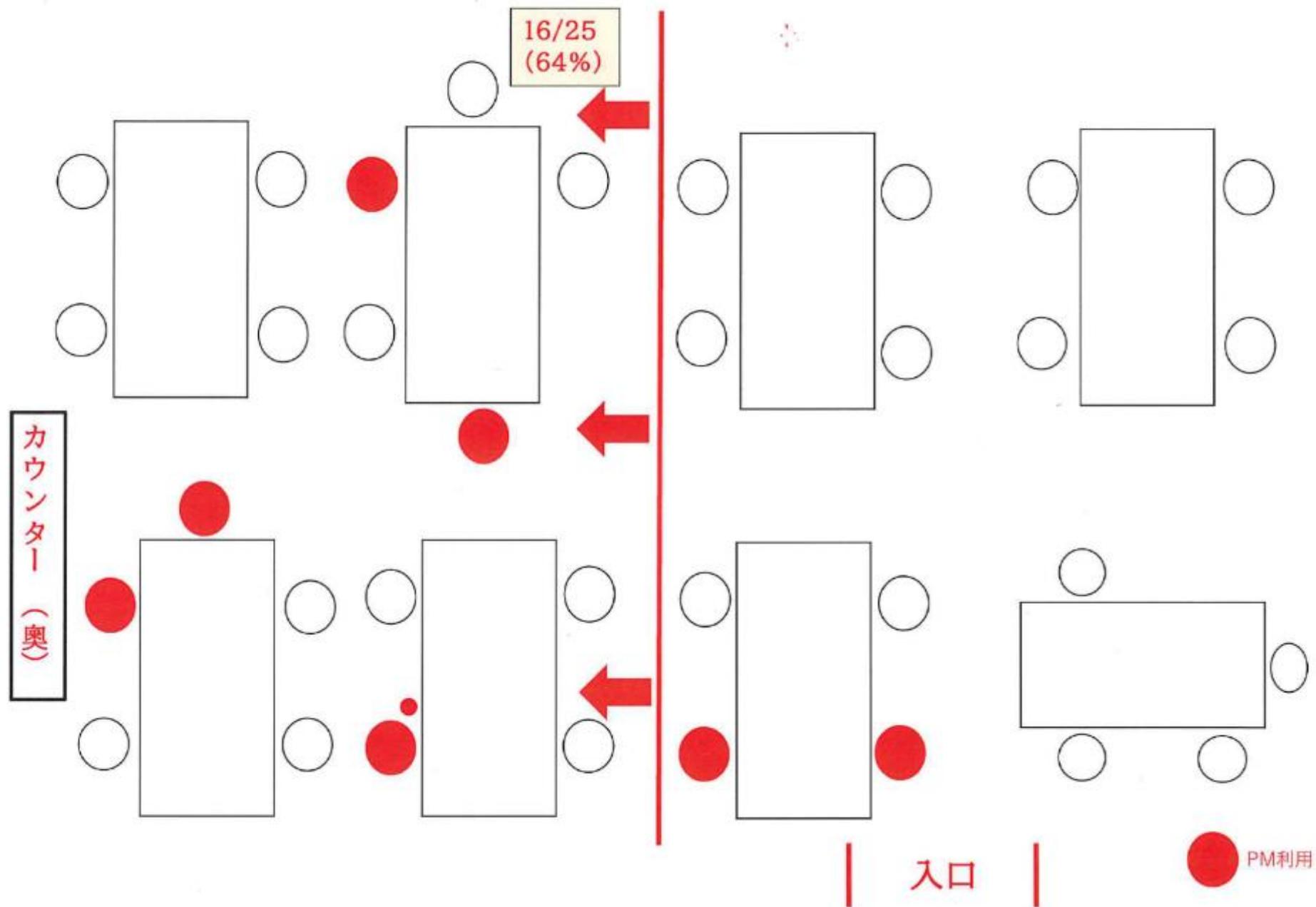
小●印死亡者



2月25日(火)

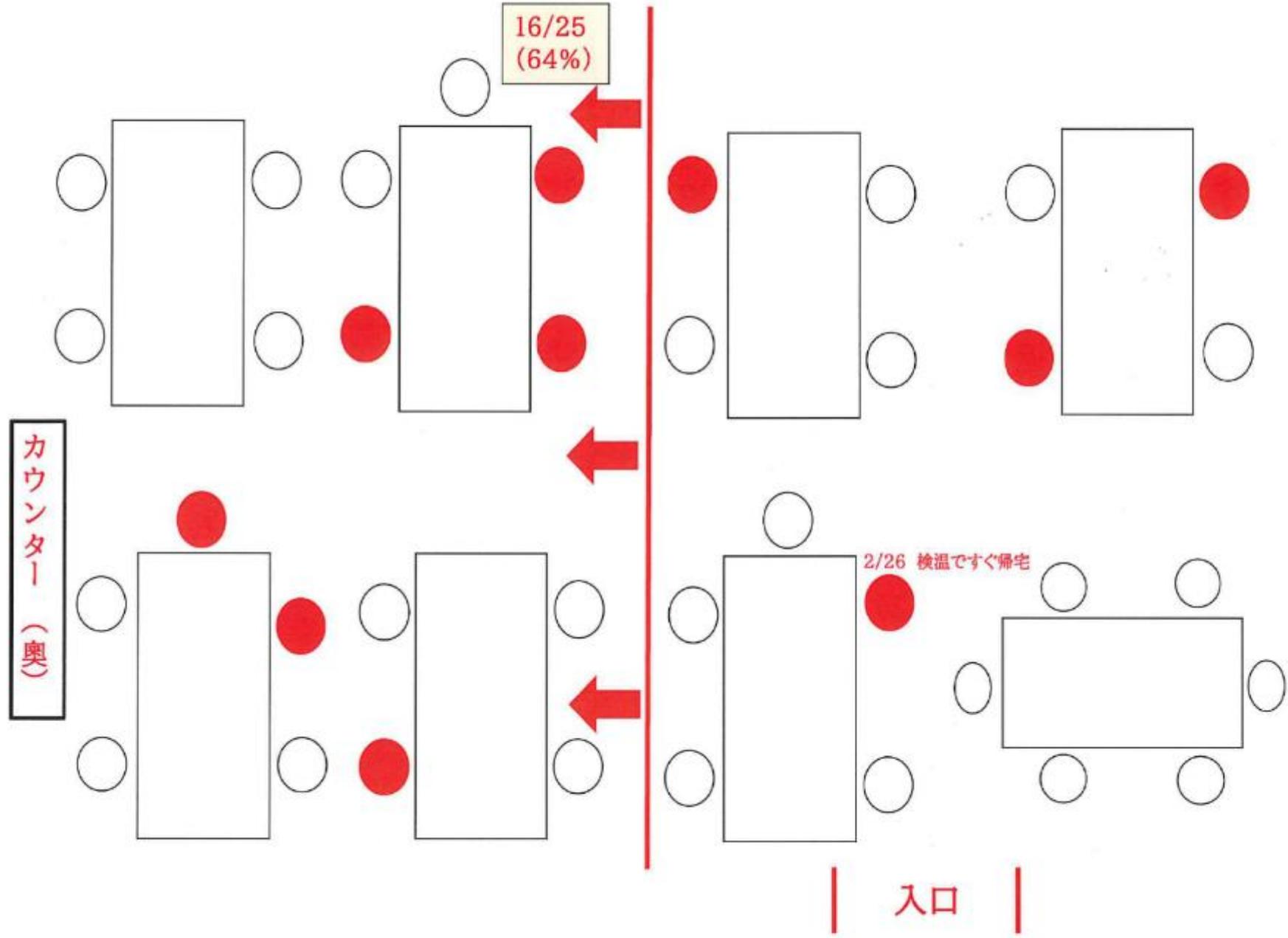
ダイルーム席表

小●印死亡者



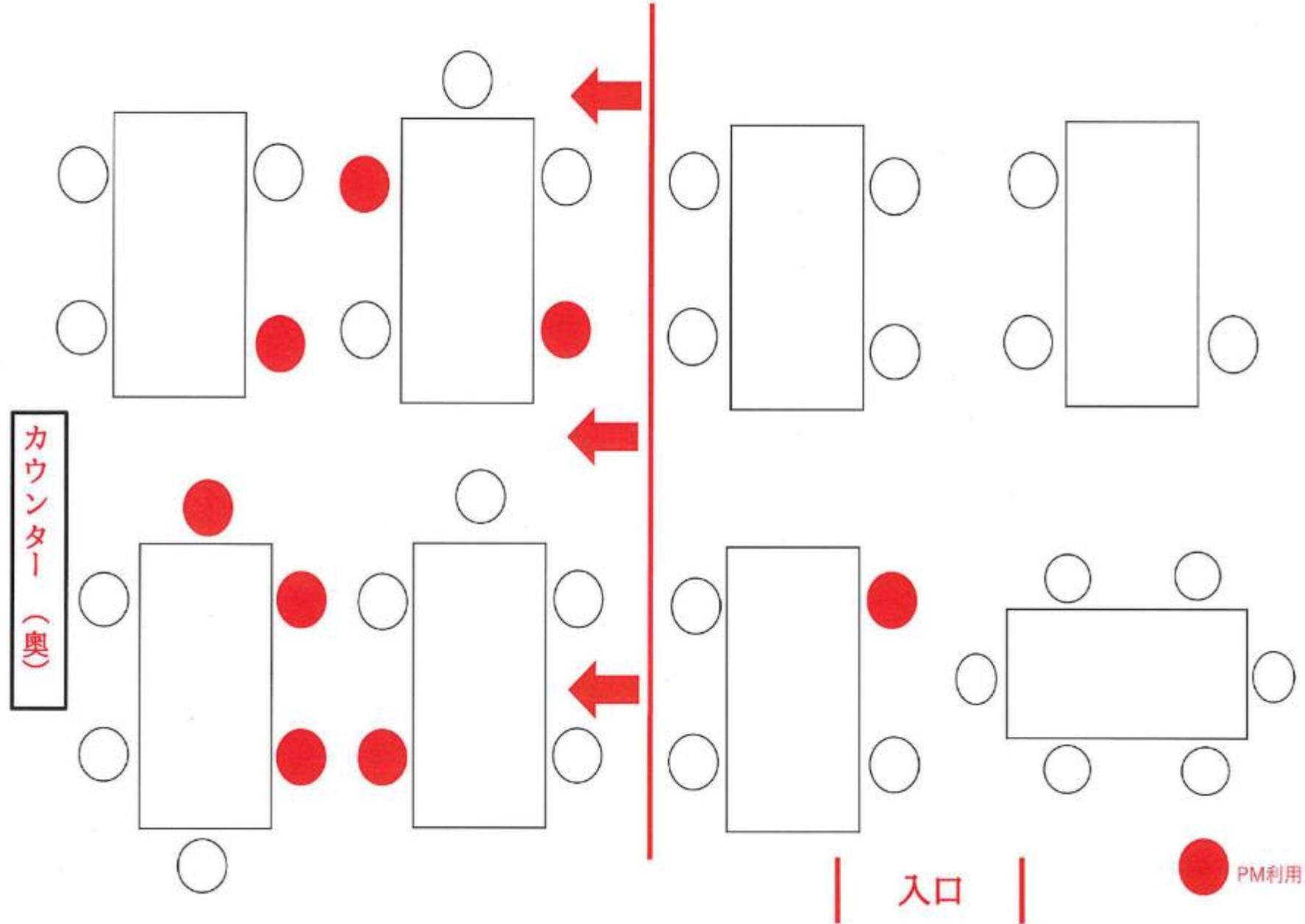
2月26日(水)

デイルーム席表



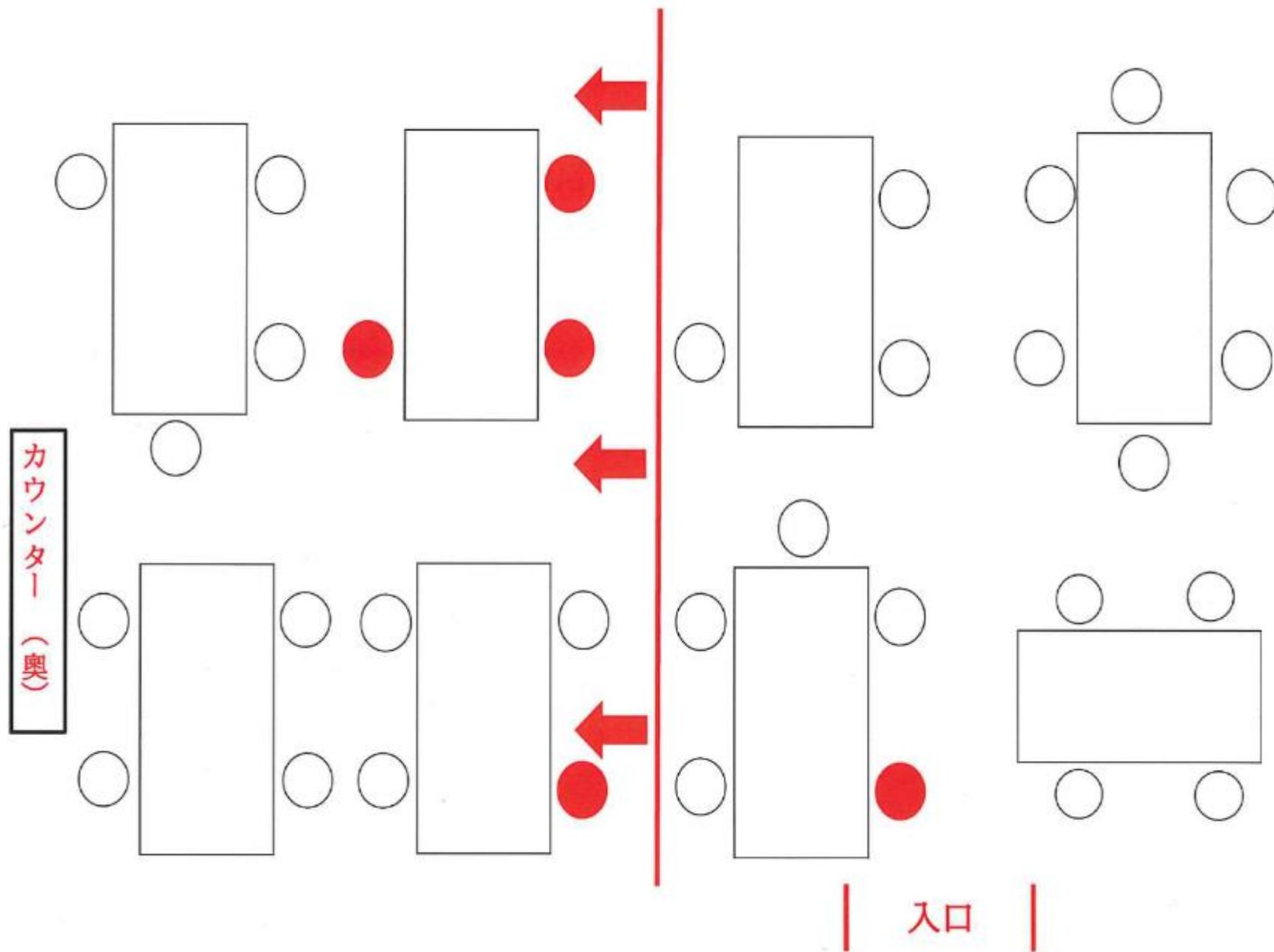
2月27日(木)

デイルーム席表



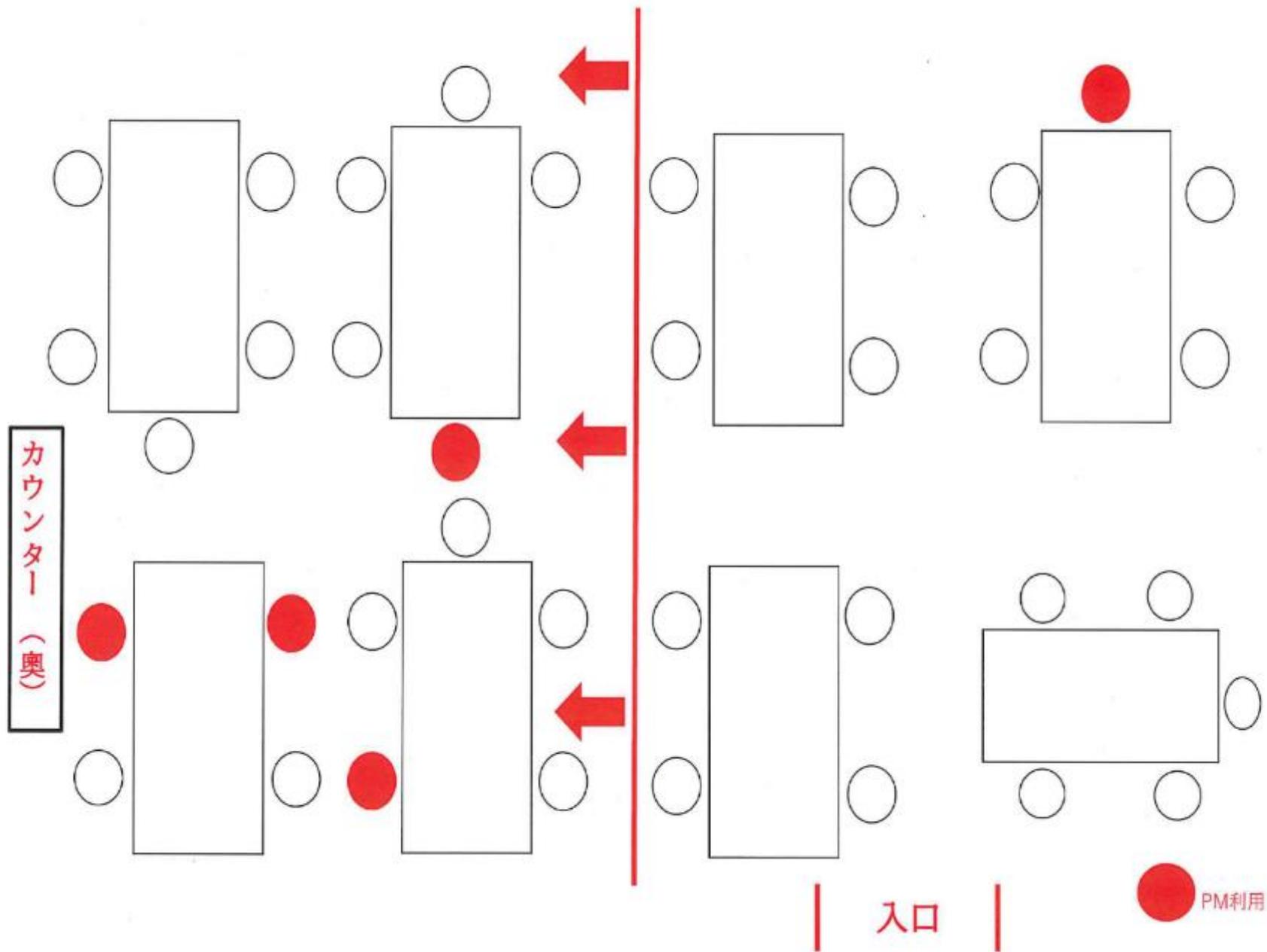
2月28日(金)

デイルーム席表



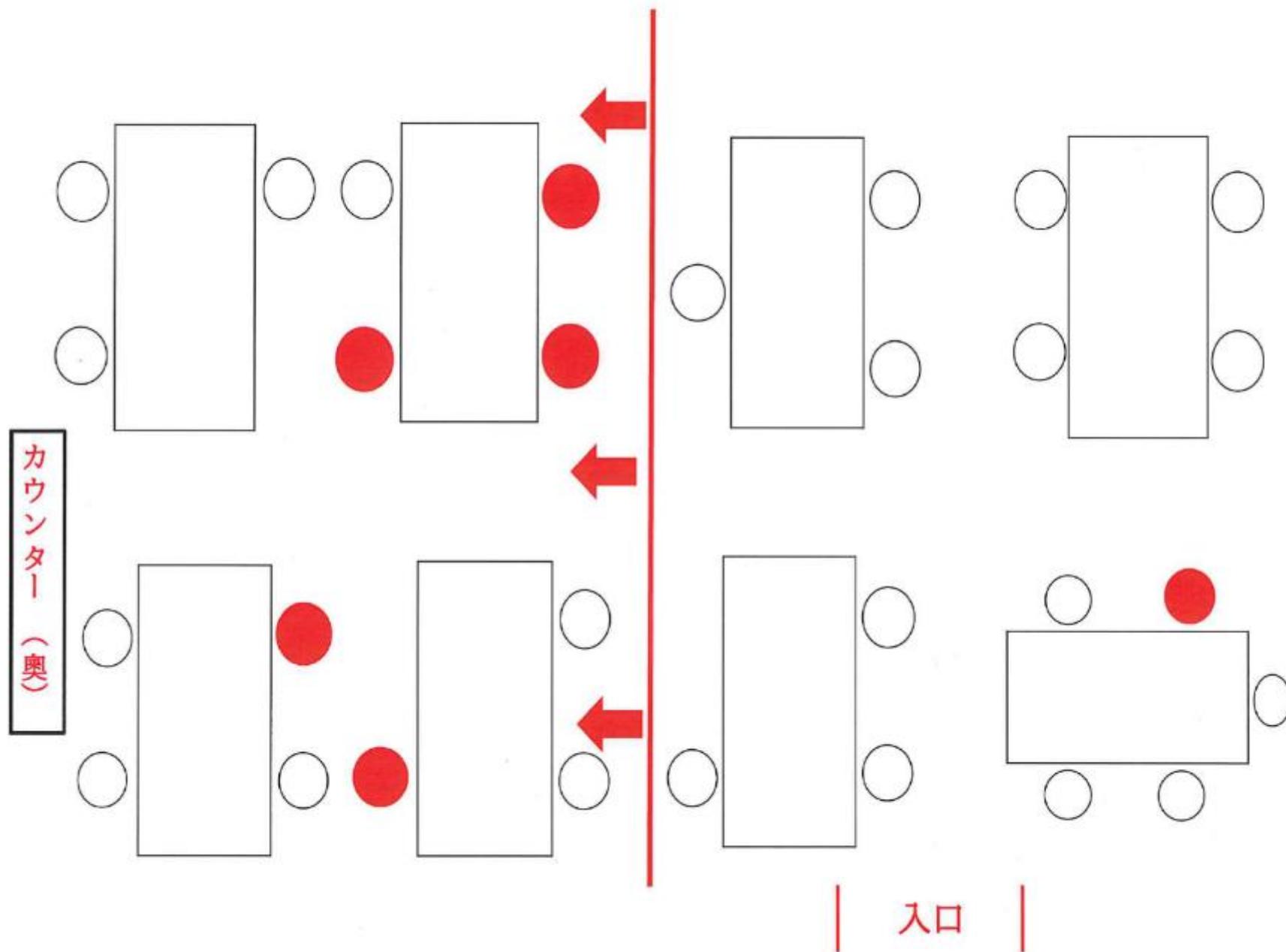
2月29日(土)

デイルーム席表



3月2日(月)

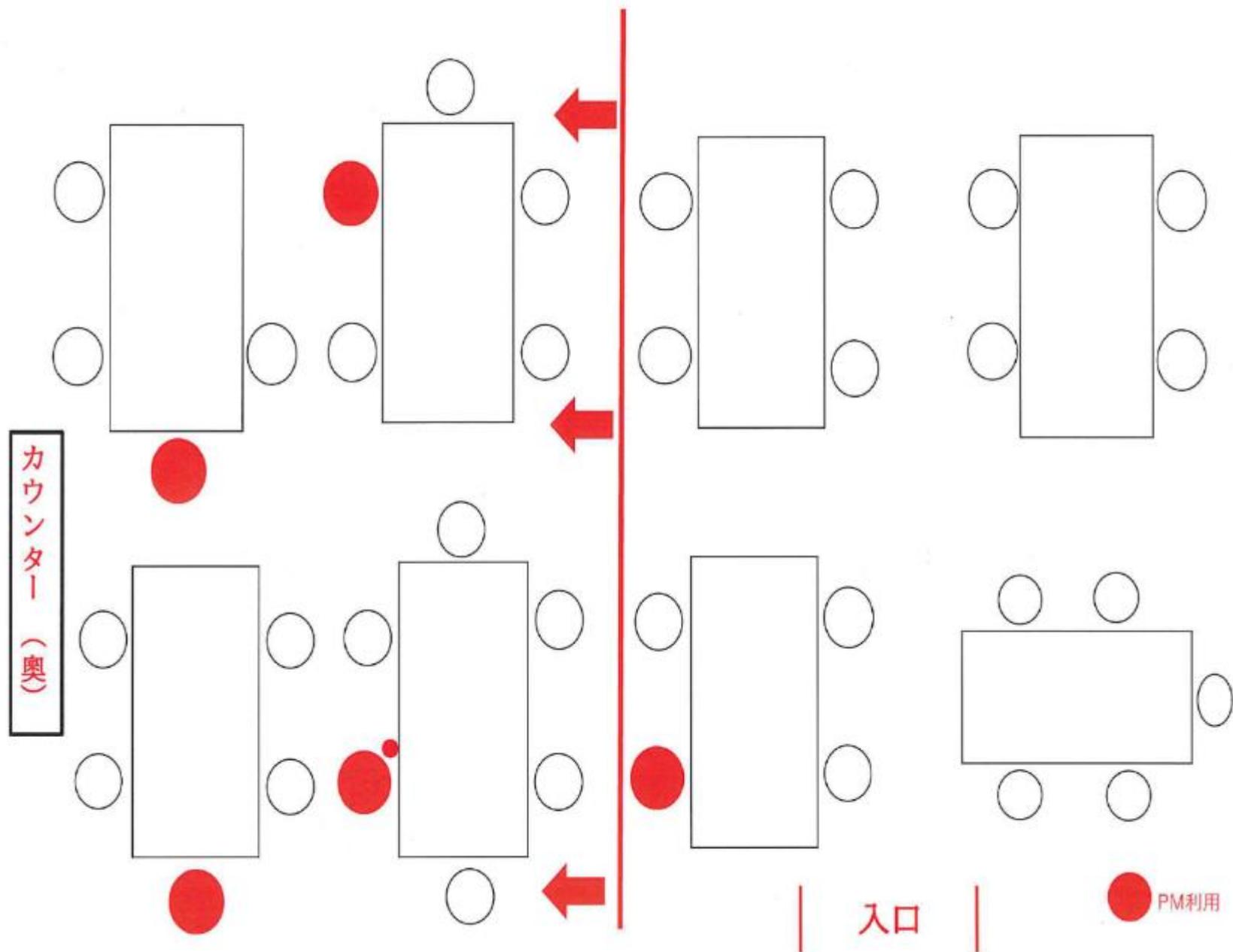
デイルーム席表



3月3日(火)

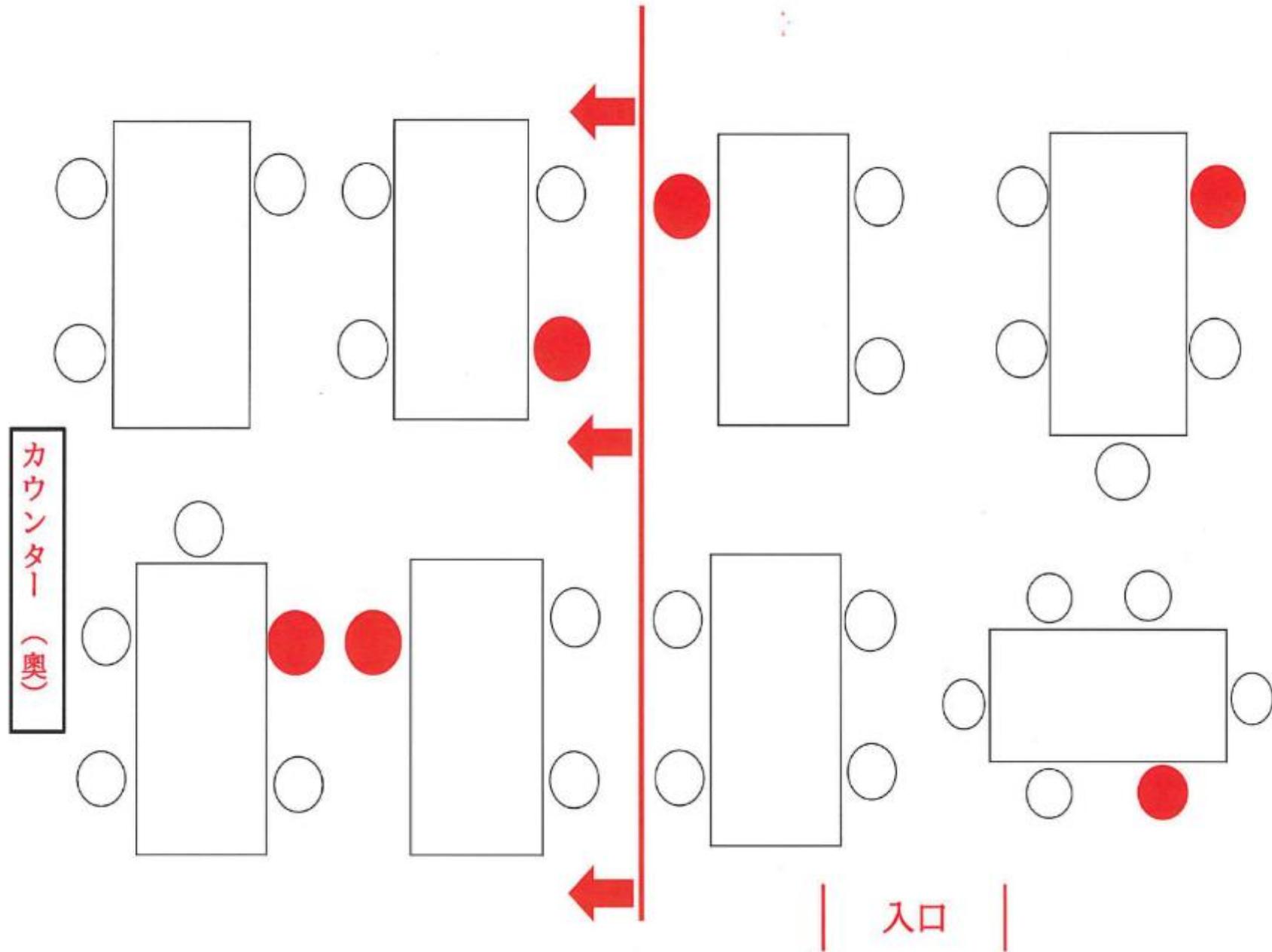
デイルーム席表

小●印死亡者



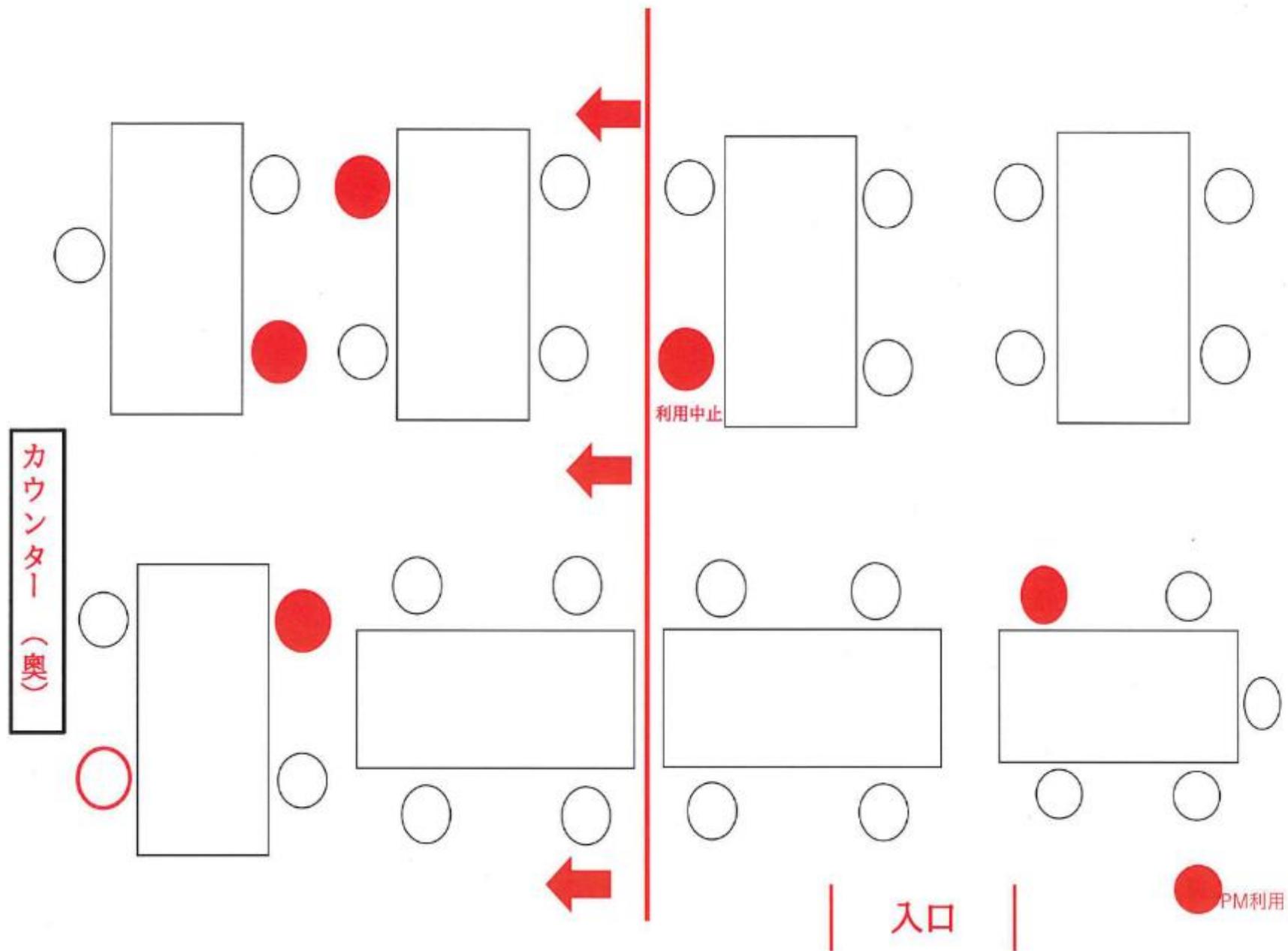
3月4日(水)

デイルーム席表



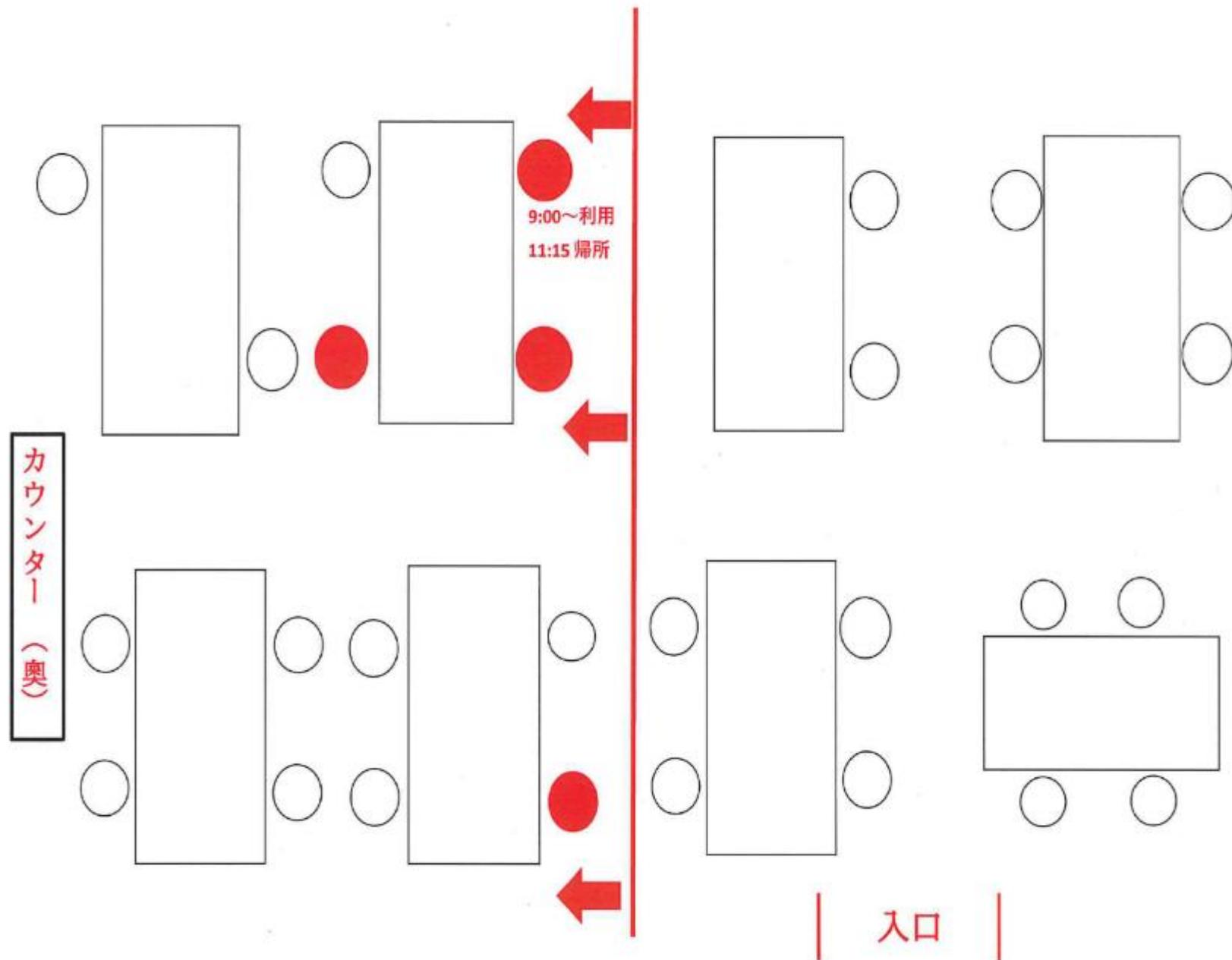
3月5日(木)

ダイルーム席表



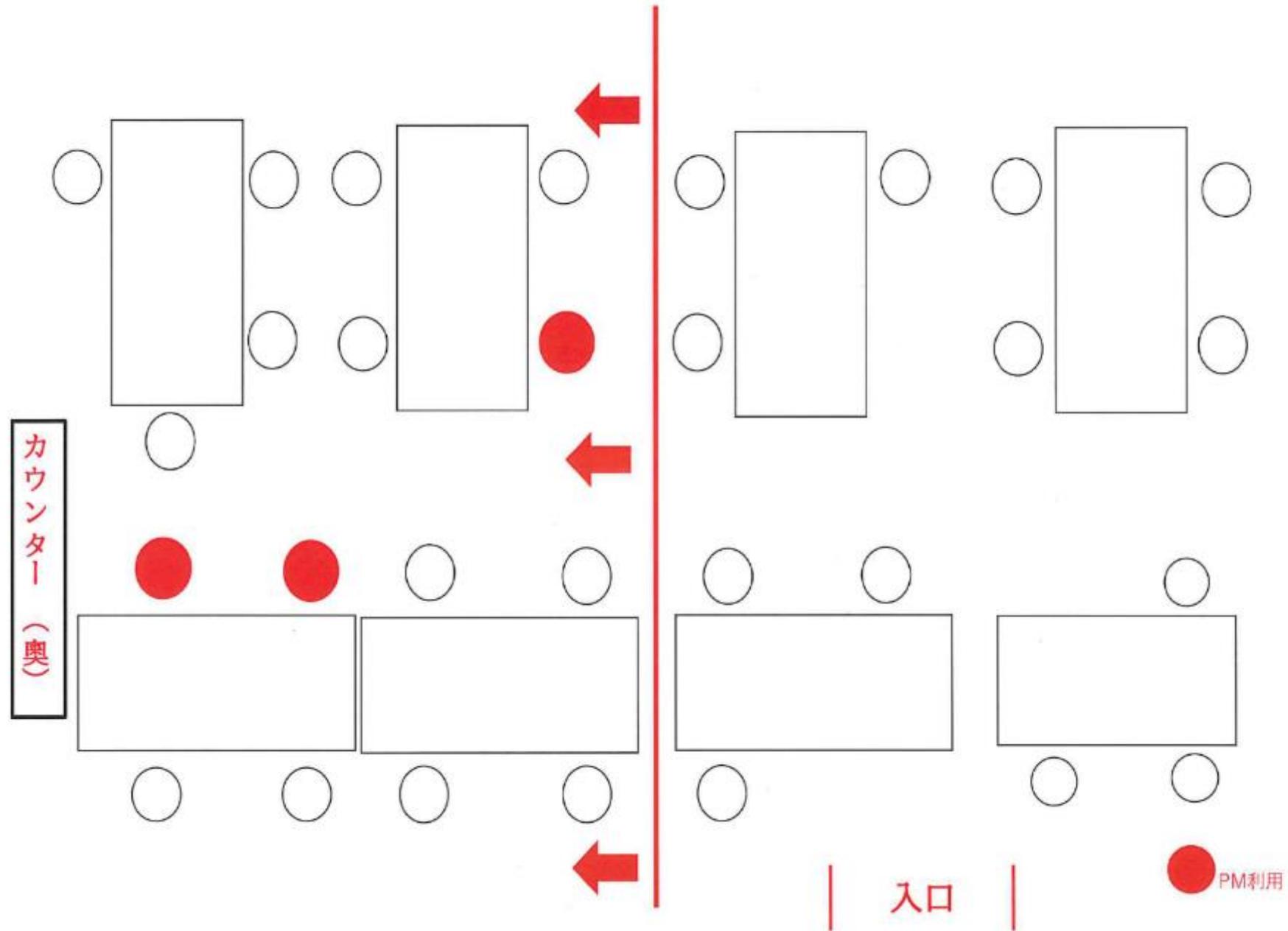
3月6日(金)

デイルーム席表



3月7日(土)

ダイルーム席表





CO2濃度(赤色)  
 測定値 最大1010ppm  
 (室内環境基準 1,000ppm 以下)

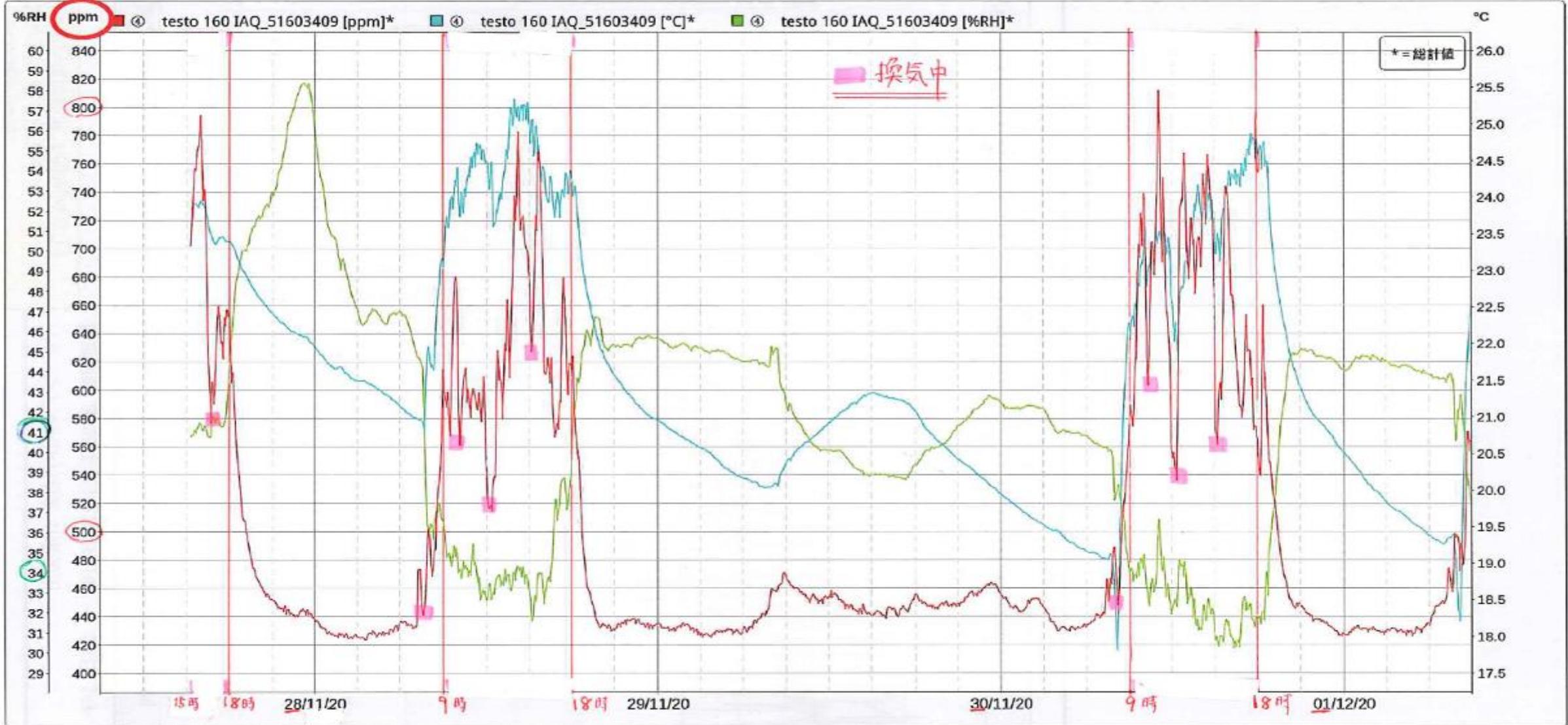
(オゾン空気清浄機使用 8:00~18:00)

グリーンアルス伊丹さま 1階ダイサービス窓側 (奥)

測定期間 2020年 11月27日15時 ~ 12月1日9時 (約4日間)

Date created 01/12/20 15:53:33  
 Created by Account Owner

1日盛 3時間



testo

CO2濃度(赤色)  
測定値 最大1010ppm  
(室内環境基準 1,000ppm 以下)

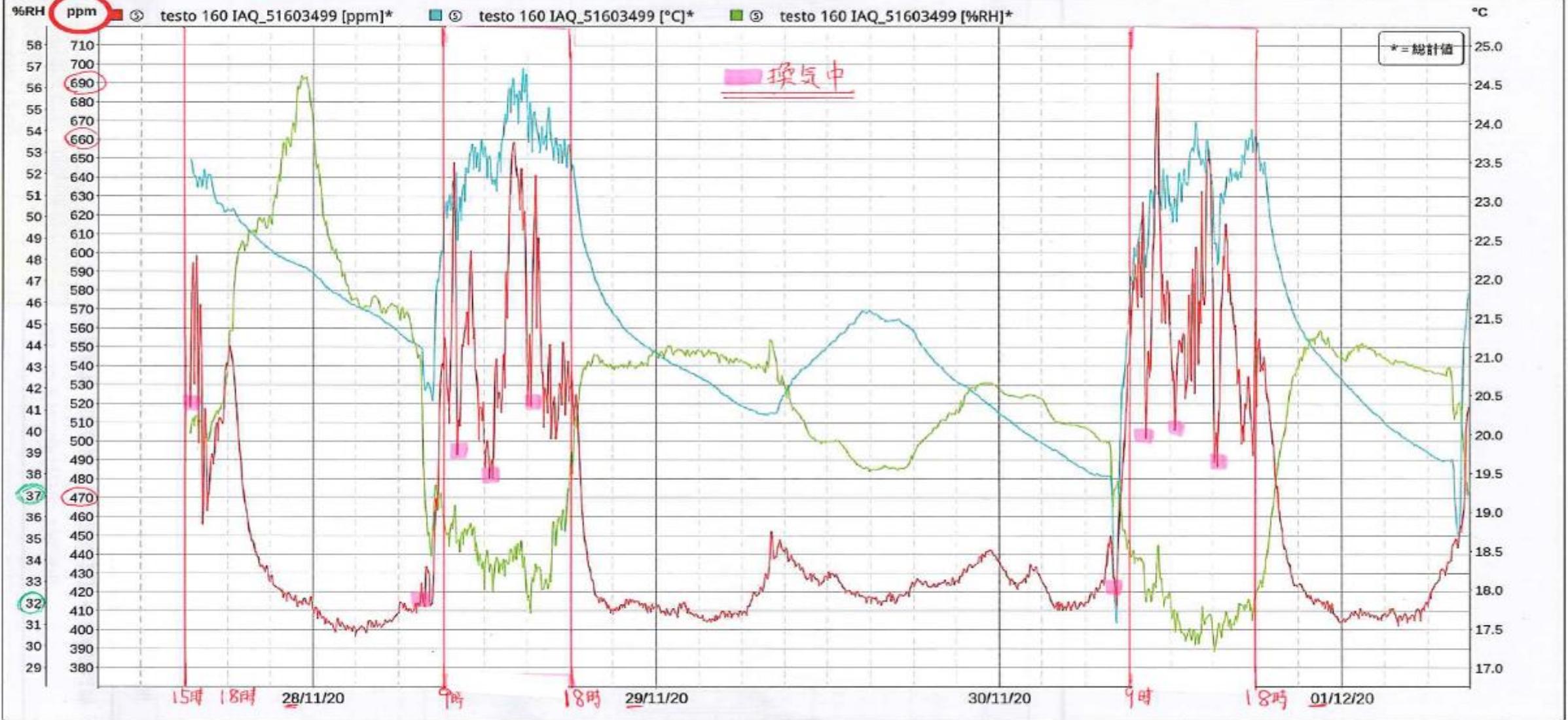
1日3時間

(オゾン空気清浄機使用 8:00~18:00)

グリーンアールズ伊丹さま 1階ダイサービス中央側(入口)

測定期間 2020年 11月27日15時 ~ 12月1日9時 (約4日間)

Date created 01/12/20 15:56:27  
Created by Account Owner



2月未から体調をくずしコロナのうたがいでPCR検査を受け陽性とわかり、  
 1週間程入院をし、コロナの隔離という入院は防護服に囲まれた環境の入院で、  
テレビのニュース等でタラスターとか感染した人も悪い様な報道を見て、  
落ち込む毎日でした。退院後自分の体力がかなり落ちていっているのに気づき、コロナとは恐ろしい大変な病気にかかったんだなと振り返ると今も怖いと思つておりました。  
 この恐ろしい病気で手洗い、うがい、消毒を学ぶ事ができました。これからは習慣つけて生活していきたい。職場でもご利用者の亦々に手洗い、消毒を忘れない様に配慮していきたいと思つています。

山一

## コロナについて

コロナと言う病気がニュースで流れていた時は、正直全く関心もなく他人事としてテレビを見ていました。

3月7日フロアのリーダーをしながら「今日はすごく肩が凝るな。首が痛いな。風邪でもひいたかな。」と思いながら仕事が終わり家に帰りご飯を作る元気も無く長崎チャンポンを食べに行きました。その日の夜中に37度越える熱が出て次の日に「アルスに陽性の方が出ました。体調はどうか？」と連絡があり自分もそうかもしれないと不安になりました。すぐ家族にも話をしました。2日ほど自宅にあった市販の熱さましを飲み様子を見ていましたが、薬が切れると、すぐに熱が上がるので宝塚の保健所に熱があるので検査をして欲しいと電話をし「病院など決めるので待ってて欲しい」と言われました。

その後もなかなか連絡もなく診察してもらえないでいると、息を吸う事が辛くなり上、横を向いて寝ることが出来なくなってしまい右側の腰が痛くなっていました。保健所にそのことを伝えると「明日の10時までに検査出来るように病院を探します」と言われ次の日、宝塚市民病院で検査を受けられました。ビニールで覆われた車椅子で専門外来に通され検査を受けレントゲン結果で「まだはっきりと言えませんが肺に影があります」と言われました。次の日、陽性と結果が出て尼崎医療センターに入院しました。4人の相部屋での入院でしたが熱が出てるのは自分だけだったので夜中のナースコールや同じ部屋にご利用者様が2名おり申し訳なく思いました。食事は名前を呼ばれたら自分で廊下まで取りに行き、紙皿と紙コップ、割りばしで食べ終われば自分でゴミ箱に捨てる。トイレとシャワーは共同でした。すごい病気にかかったんだなとつくづく感じました。入院してから40度越える熱が5日くらい続きましたが、熱が下がってから2日後には検査をしすぐに陰性が2回出て退院しました。退院してからは体力がなく、家の事もあまりすることが出来なかったです。コロナは本当にしんどかったです。二度とならないように気を付けて行きます。

誰にもなってほしくないと言う気持ちでいっぱいです。

その為出来る事をしっかりとしていきたいと思います。

1ヶ月余り長い期間に渡り、コロナウイルスの陽性反応が続き入院していました。

カゴ川医療センターは入院後1週間目から週1回PCR検査を実施。2回陰性反応になると退院になりますが私は4回目の検査でやっと陰性となりました。その間無症状のままでとても不安になりました。病院では夫規則正しい生活に努め、水分をいつも以上に取る事、手洗いなど私なりにできる事に努めました。

退院後、なるべく家族と距離を置き、会話も控える様にしました。そして水分をとる、手洗い、外出も控えています。仕事に戻り、手洗い、アルコール消毒の徹底を心がけ、持ち出さない、持ち込まないを意識して徹底に心がけています。

### コロナウイルス感染症

3/8（日）西宮市の保健所から連絡が入り、お一人目の感染者がわかった。コロナウイルス？感染者？これからどうなる？と、頭の中がいっぱいになったのを覚えています。

保健所の方から、ご利用者の方、スタッフは濃厚接触者となり、2週間の自宅待機、3/9（月）よりデイは休止の指示がでました。

常勤スタッフで担当を決め、携帯電話と名簿を持って自宅待機に入りました。毎日、電話だけのやり取り、高齢のご夫婦には、自宅待機と言う意味が伝わらず、何度も同じ方へ連絡したり、不安が怒りになりご立腹されてしまうご家族等の対応に追われました。感染者がだんだんと増え、クラスターと報道され、どんどん不安になっていきました。最初にスタッフからPCR検査を行い、無症状で感染しているスタッフがわかりコロナウイルスの怖さを実感しました。ご利用者全員のPCR検査を受けて頂くまでの時間がかかり、ご自宅内で隔離した生活がなかなか難しい、家庭内での2次感染もあったと思います。毎日、体調確認のお電話をさせて頂く中で、不安なお気持ちを話して下さったり、スタッフの体調を気遣って下さるご家族や応援して下さる方の声に、皆で頑張ろうと思っていました。感染し入院となったご利用者の方、スタッフが早く回復してくれることを願いましたが、お亡くなりになられたとの報告が入り、とても悲しく辛かったです。

パートのスタッフへは細かな情報が伝えにくく、テレワークの合間に直接電話をしながら伝えました。不安な時間を過ごしているはずなのに皆、常勤のスタッフへの気遣いの言葉をくれました。色々な風評も事務所のスタッフが対応して下さり、本当に大変だったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

4/9より再開が出来た事は、お休みもなく対応して下さった施設長、事務長をはじめ色々な部分で助けて下さったスタッフの方々、待っていて下さったご利用者の方の為にも、しっかりと感染対策を行いチーム一丸となり進んでいきたいと思えます。

最後になりましたがお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。

# TEN IN A BED

「コロナウイルス感染発生を経験して、

3/8(日)に最初の感染者が発表され、3/9(月)より休業になり、利用者様の健康チェックの為の「テレワーク」が始まりました。受け持ちの二十数名の方に1ヶ月、日曜日も含め毎日電話を掛けさせて頂きましたが自宅にて詳しい状況もわからず、よき家族様からの問い合わせやお叱りの言葉を沢山頂き、中にはかなりきつい言葉で苦情を言われる方もいて、正直電話恐怖症になりそうでした。利用者や家族様が「ウイルス」の関係者ということで病院受診を拒否されたというお話を何回か聞き、申し訳ない気持ちにもなりました。また検査で陰性にはなったものの、自分が利用者様の検査の為の送迎をしていくうちに感染しているのではと不安にかさねることもありました。いつも穏やかな利用者様の背景には、こういう家族様も、いるのだと、初めて認識できたことも沢山ありました。休業からの色々な出来事も貴重な経験と思うようにしてこれからの日々役に立って、いこうと思っております。



When there were NONE in the bed  
and no one said,  
"Roll over! Roll over!"

コロナについて

新型コロナウイルスの恐ろしさというものを  
これほどまでに猛威を振るう以前は、どこか人ごとのように  
感じていました。まさかこれが「クラスター」となり  
自分の身の回りにおこるとは想像もしていませんでした。

大切な人達の命が失われていくのを目の当たりにしても  
何も出来ないうもどかしさに悲しくなりました。

自分には何が出来るのだろうかと考えた時に、普段からの  
マスクの着用、手洗い、消毒といった感染対策を徹底  
して行っていくことが一番の方法だと思えます。

そして、自分が「感染源」になることは絶対にあってはならない  
し、施設や二度と感染者が出ることは絶対にあっては  
ならないと強く感じています。

当たり前前のことが「当たり前」ではない世の中ではありますが、  
だからこそ自分の行動に責任を持ち、意識を高めて  
日々の業務に取り組みたいと思います。

#### ・捨てる神ありや拾う神あり

市内の基幹病院の玄関・外壁のいたるところに施設関係者は勝手に立ち入るなど大量の張り紙がめぐらされ医師会は、市内医療機関に対し当法人全ての事業所を列挙し警戒を促す旨を発信し、関係者全員受診拒否という事態を招いた。ご利用者様達が体調悪くても見てもらえない状態が続いたときは本当に申し訳ない気持ちいっぱいでした。

一方で、一貫して支持・支援して頂いたのは大半のご利用者様とそこご家族でした。心温まるたくさんの手紙を涙しながら読んで耐え抜きました。さらに縁もゆかりもない会社から温泉・プリン・ピザ・オゾン空気清浄機の贈呈を受けました。また、当時唯一、施設の声を正確に掲載してくれた読売新聞の記事を見た読者からの声援も多くいただきました。テレビなら生放送か文書ならこちらが用意したものをそのまま掲載してもらおう。

#### ・約2年経過して施設の現状

デイケアにおいては、1年半が経過した昨年11月ごろからようやく大半のご利用者様の復帰と新規申し込みが増えてきて曜日によってはコロナ前を上回る稼働日も出てきました。

これは、緊急事態が明けて感染者が落ち着いていたことでもあります。施設がコロナ禍において進化した一面も関係していると考えています。

面談を制限しリモート面談に移行するうちに、様々な映像・画像を取り込んでご家族やケアマネにご利用者様の情報をお見せするようになり、見学や面談に来られても見れなかったリハビリ風景や支援状況を見て頂けるようになりました。これは、最も反響がありました。さらに以前は、たくさんのボランティアの方々の催しがありましたが、入場制限をしていく中で全体で行えるイベント活動は激減した一方で、スタッフ一人一人がご利用者様個々のコミュニケーションを積極的にすることで、個別情報を収集し新たな個別支援を充実させて行きました。こういうピンチを如何にチャンスに変えていくか、という日常業務から生まれる思考力・実行力を培っていくことも大切なBCPと感じています。

以下の項目にあてはまる方は  
建物内に入らずに、インターホンでお知らせください

同施設を利用または、同施設に勤務する同居のご家族がいる方

同施設を利用または、同施設に勤務している方と3月以降に濃厚接触した方

介護老人施設「グリーンアルス伊丹」

関連施設：大橋クリニック

グリーンアネックス西野

グリーンフェアネス

宝塚第一病院

ライブハウス

ナイトクラブ



市立伊丹





正義の味方気取りで当事者大迷惑

- 1面 市長からのメッセージ
- 2面 新型コロナウイルス感染症Q&A
- 3面 事業者への支援
- 4面 学校園、保育所などに関するお知らせ

【問い合わせ先】  
 市危機管理室 ☎784-8166  
 市健康政策課 ☎784-8034

## 新型コロナウイルス感染症拡大

### 「知っていただきたいこと」と「今、できること」

#### 市長からのメッセージ

このたび、介護老人保健施設「グリーンアルス伊丹」のデイケア利用者や職員、関連施設の職員に新型コロナウイルス感染症の患者が複数名確認され、同施設を利用されていたご高齢の方がお亡くなりになっております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。高齢者の介護サービス施設での多数の感染者発生に、私といたしましても強い危機感を持っているところです。

同施設は、県伊丹健康福祉事務所の指導に従い施設内を消毒し、2週間のデイケア事業の休止、職員の自宅待機などの対応を実施しています。

県は、3月1日より知事を本部長とする「対策本部」を立ち上げ、感染経路や濃厚接触者を調査し、その結果を踏まえ感染の拡大防止に全力で取り組まれています。

本市は、引き続き私を本部長とする「伊丹市新型コロナウイルス感染症対策本部」において、感染拡大をできる限り抑制し、市民の健康を守るための対策を関係機関と密に連携しながら、全力を挙げて取り組んでいます。

市民・事業者の皆さまには、国や県、市から発信する情報を基に、落ち着いて行動していただくとともに、手洗いや咳エチケットを徹底し、発熱などの風邪症状がみられる場合は、外出を自粛してください。

#### 【本市の対策】

- ▷ 3月25日(木)まで休業＝市立幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校
- ▷ 3月31日(木)まで中止＝市主催イベント
- ▷ 3月31日(木)まで閉鎖＝公共の屋内施設（各施設の閉鎖状況は市ホームページで確認を）
- ▷ 公共施設にアルコール消毒液を配置
- ▷ 伊丹市医師会と「グリーンアルス伊丹」デイケア利用者の在宅ケアのための関係事業所に合わせて計10000枚のマスクを配布

伊丹市長 藤原 保幸

#### 国における感染拡大防止対策

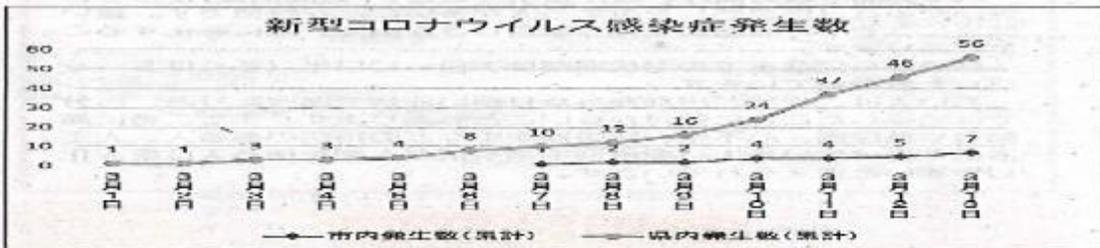
国は、2月1日付けで新型コロナウイルス感染症を「指定感染症」に指定し、全国の検査所などの検査体制や入国管理の強化など水際対策を実施してきました。

その後、複数地域で感染経路が明らかではない患者が散発的に発生し、一部地域には小規模患者クラスター（集団）が把握される状態になったため、これまでの方針より徹底した対策を講じる内容の基本方針を2月25日に発表しました。

続いて、大規模イベントの自粛や各自治体へ学校園の臨時休業の要請、さらなる感染拡大防止策や医療提供体制の整備、学校の臨時休業に伴って生じる課題への対応、事業活動の縮小や雇用への対応など経済対策の実施 など、対策が図られています。

#### 市内発生状況

3月13日時点、市内居住の新型コロナウイルス感染症患者は7件確認されています。感染が確認されたのは、主に介護老人保健施設のデイケア利用者やその家族となっています。



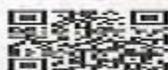
### 最新情報を発信 皆さん登録を

本紙は3月13日時点の情報です。最新情報は、市ホームページやSNSなど（右記）でお知らせします。

市ホームページでは当分の間、新型コロナウイルス感染症に関する特別ページを開設しています。また、同感染症の患者などに関する情報をSNSなどで発信（自治会同意も予定）しています。

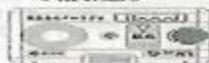
本紙3月15日号以前の紙面で掲載している3月31日までの市主催のイベントなどは原則中止です。詳しくは、市ホームページや各施設などで確認を。

#### Facebook



#### エフエムラジオ

エフエムいたみ (79.4MHz) で放送。



#### Twitter



#### 緊急災害情報メール

空メールを送信し、登録手続きを。



LINE

市のLINEアカウント（伊丹市防災・要支援者安否確認）は避難行動要支援者の安否確認を行うモデル事業（実証実験）を兼ねているため、専用のメニュー画面がありますが、同対象者以外の方は同メニューが利用できません。



## 市長からのメッセージ

このたび、介護老人保健施設「グリーンアルス伊丹」のデイケア利用者や職員、関連施設の職員に新型コロナウイルス感染症の患者が複数名確認され、同施設を利用されていたご高齢の方がお亡くなりになられております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。高齢者の介護サービス施設での多数の感染者発生に、私といたしましても強い危機感を持っているところです。

同施設は、県伊丹健康福祉事務所の指導に従い施設内を消毒し、2週間のデイケア事業の休止、職員の自宅待機などの対応を実施しています。

県は、3月1日より知事を本部長とする「対策本部」を立ち上げ、感染経路や濃厚接触者を調査し、その結果を踏まえ感染の拡大防止に全力で取り組まれています。

本市は、引き続き私を本部長とする「伊丹市新型コロナウイルス感染症対策本部」において、感染拡大をできる限り抑制し、市民の健康を守るための対策を関係機関と密に連携しながら、全力を挙げて取り組んでいます。

市民・事業者の皆さまには、国や県、市から発信する情報を基に、落ち着いて行動していただくとともに、手洗いや咳エチケットを徹底し、発熱などの風邪症状がみられる場合は、外出を自粛してください。

### 【本市の対策】

- ▷ 3月25日(火)まで休業＝市立幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校
- ▷ 3月31日(火)まで中止＝市主催イベント
- ▷ 3月31日(火)まで閉館＝公共の屋内施設（各施設の閉館状況は市ホームページで確認を）
- ▷ 公共施設にアルコール消毒液を配置

▷ 伊丹市医師会と「グリーンアルス伊丹」デイケア利用者の在宅ケアのための関係事業所に合わせて計10000枚のマスクを配布

伊丹市長 藤原 保幸

この広報のせいで、ご近所にコロナで亡くなったことが知られることとなり、挨拶すらしてもらえなくなった。

続いて、大規模イベント、さらなる感染拡大防止に伴って生じる課題への対策の実施——など、対策

3月13日時点、市内居られています。感染が確認された利用者やその家族とな

新型コロナ

60

マスクをあたかも1万枚くれたような、実際は市内事業所の一番最後に250枚くれただけ

市内

# F A X 通 信 票

また聞きで当該事業所へ確認もなく発信される

発信者  
伊丹市千僧 1 丁目 1 番地  
一般社団法人 伊丹市医師会  
TEL (072)775-1114  
FAX (072)775-1116  
E-MAIL jimu@itami-med.or.jp  
URL <http://www.itami-med.or.jp>

会 員 各 位

通信欄

伊丹市医師会新型コロナウイルス感染症情報 (2020年4月3日)

介護老人保健施設グリーンアルス伊丹 (関連施設=大橋クリニック、サービス付き高齢者向け住宅「グリーンアネックス西野」、デイケアセンター「グリーンフェアネス」) 関連の新型コロナウイルス感染者の増加が続いています。 → 続いてないし

今回新たに医師の感染が報告されました。 全く別ルート (104例目)

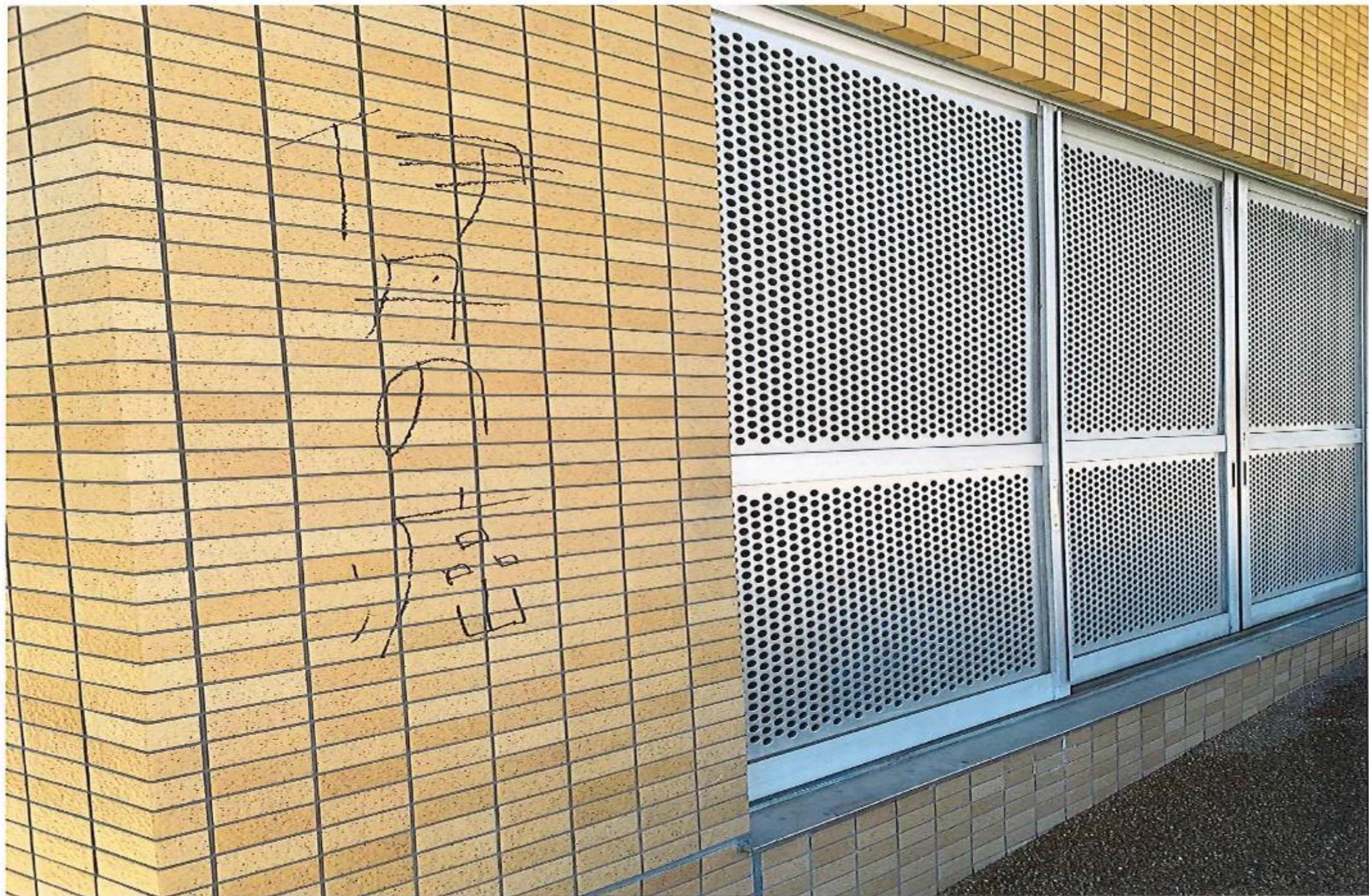
また他の感染経路未確認の患者も増加しています。 → 誰のこゝやねん

[https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk08/corona\\_kanjyajyokyo.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk08/corona_kanjyajyokyo.html)

会員の先生方に於かれましては感染者の増加が続いている中、従前同様自院の感染防御対策をしっかりと行いながら診療をしていただくようお願いいたします。

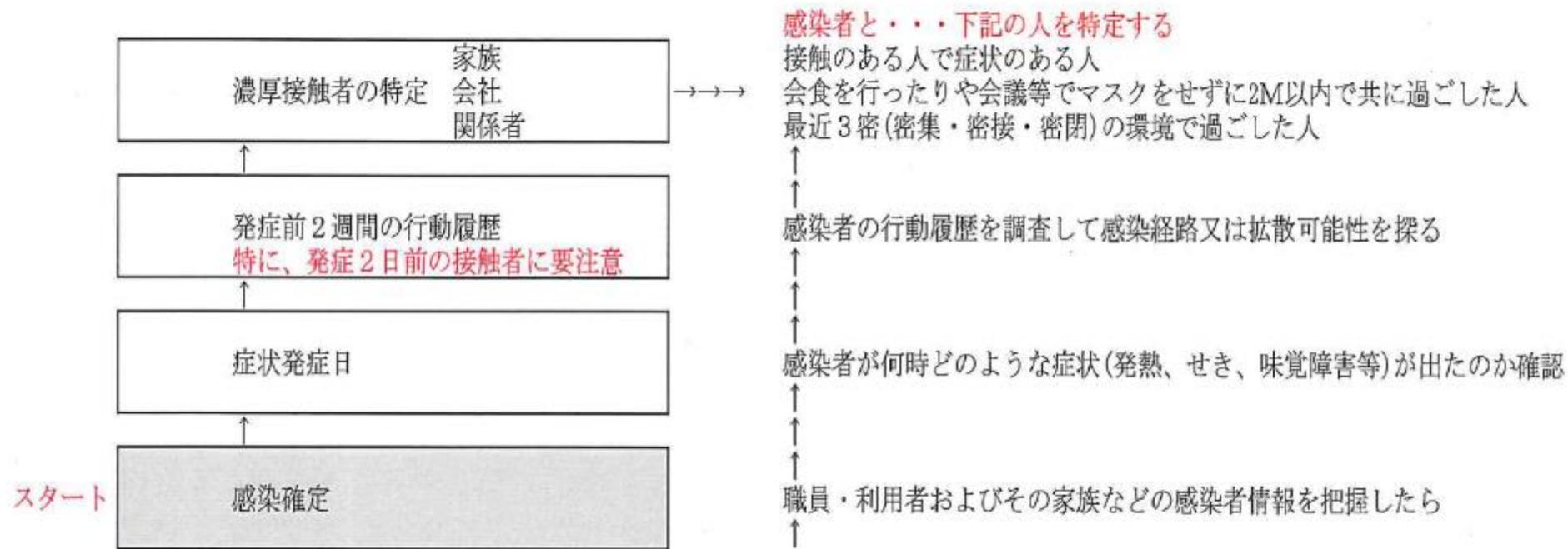
3/23 最後  
ウーノ

令和 2 年 4 月 3 日

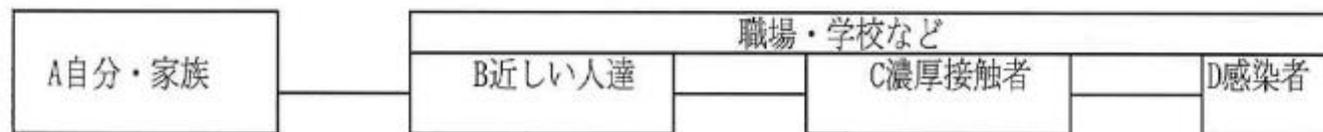


# 如何に濃厚接触者にならないかを考えて先回り

職員・利用者の感染ルートから職場感染につながることをいかに防止するかを考えています。



## 実際の運用例



※A: 感染者情報 (A: Infected person information) ※B: 近い人達 (B: Close people) ※C: 濃厚接触者 (C: Close contacts) ※D: 感染者 (D: Infected person)

# 新型コロナウイルスへの感染リスクの考え方

高リスク

友人・親族の家に宿泊する（帰省など）

友人宅でのホームパーティに参加する

他人の家に宿泊したり、一緒に食事をすることは、とくに大きな感染リスクとなる。

**強く自粛を推奨するライン**

同僚と飲酒を伴う宴会をする（忘年会）

友人とカラオケを楽しむ（マスクなし）

マスクを外すイベントは感染リスクとなり、とくに飲酒と長時間が増大させる。

友人とレストランで食事をする

**自粛を推奨するライン**

友人とゴルフをする（会食なし）

友人と映画館に行って鑑賞する

野外やマスクを外すことがないイベントにおける感染リスクは高くない。ただし、長時間であったり、密接になればリスクが高まる。

友人とショッピングモールを歩く

友人と近隣の公園を散歩する

家族とホテルに宿泊する

同居する家族とのイベントについては、新たな感染リスクとして考える必要はない。

家族とレストランで食事をする

低リスク

# 「コロナ」集団感染再開のデイケア

新型コロナウイルスの集団感染がデイケア部門で起きた介護老人保健施設「グリーンアルス伊丹」（兵庫県伊丹市）。1か月の休業を経て事業を再開した同施設の塩田真一郎事務長（58）が、読売新聞の取材に応じた。休業中の利用者のケアや関係者への周知、職員への所得補償などはどうだったのか。生々しい証言からは、風評被害の実態のほか、自治体との連携や脆弱な訪問介護体制の課題が浮かび上がる。

（編集委員 猪熊律子）

デイケア 介護保険サービスの一つで正式には通所リハビリテーションという。自宅で暮らす要介護高齢者が老人保健施設、病院、診療所などに併設された施設に通い、生活機能向上のための機能訓練や入浴、食事などの支援を受ける。

## 正確な情報発信 行政に期待

「感染の経緯から聞かせてほしい。」

### 再開後、強化した主な感染防止対策

- ・利用前に体温、症状の有無、家族の体調などを健康チェックシートに記載してもらう（以前の連絡ノートよりも具体的に記載）
- ・利用日2日前から本人と家族に37度以上の発熱や症状がないことを確認（以前は当日の体調チェックと検温）
- ・換気は2時間に1回、10分間行う（密閉対策）
- ・同一時間帯の最大利用者をこれまでの半分の16人にする（密集対策）
- ・テーブルの席は、対面をやめ、片側だけに座る（密接対策）
- ・体操時に声を出さない、歌を歌わない
- ・3密回避のため、入浴は1人週1回にする（以前は利用者により週1～3回）

月9日の再開から約1か月も、ウィルスのインフォメーションの名前が貼られていた。一方で全国から励ましや手紙も届き、職員はうれし涙で乗り越えてきた。施設名を公表した自治体や事業所もある中で、表した理由を知りたい。「差別や誹謗中傷への対応はあったが、危機管理の観点から『オープン』でないと最も大切だと常々思ってきた」

「無症状でも感 経営面の課題は。『自宅待機となったのは、すぐ給与を全額保証と伝え、不安軽減に努めた。1か月の休業に加え、入浴を中心に入浴を減らし、経営は厳しい。金と国の緊急融資などが、正直、先が見えない。行政との連携は、」

# 休業後も消えない風評被害

「6月8日（土）利用された方の感染を、8日に保健所からの連絡で知った。3日朝の検温時の熱は36度台で風邪の症状もなく、まさに青天のへきれきだった。9日から2週間休業という県の要請を受け、県には施設名を公表すると伝えることも、利用者と関係する外部の事業所に感染の事実と休業について知らせた。問い合わせが殺到してパニックにならないよう、県の発表前に連絡するようにした。PCR検査の結果、ご利用者やご家族、職員の感染報告が続いたことなどもあり、施設の判断としてさらに2週間休業とした」

「休業中の利用者のケアはどうしたのか。」

「自宅待機となった職員が1日2回、電話で健康状態などをお尋ねした。一番困る入浴はご家族が体を拭くなどして対応されたが、約150人のご利用者の中には独居の方が20人近く、認知症の方も40人以上いる。うちの法人やほかの事業所のヘルパーが自宅を訪ね、防護服を着て対応し

「何があったのか。」

「検査結果が判明するたびに、行政の会見や報道でアルスの名前と感染された方や亡くなられた方の人数だけが伝えられた。すると施設は既に閉鎖されて中での感染はないのに『ウィルスの巣窟』とのイメージが植え付けられてしまった。我々の事業は不特定多数が相手の一般の店と異なり、ご利用者の情報が把握で

「再開心持ち一転」

「再開心持ち一転」

「また感染が起きたら不安はある。リスクを減らすなら事業をやめないが、それでは日本が立ちゆかなくなる。ただの対策をしていく。えしたいのは『無症状感染者』ということ。なすべき行動を考え、いさまの精神を持って、責められることも、差別されると思う」

## 「介護崩壊」も現実味



3密（密閉、密集、密接）を避けるには、高齢者介護施設での集団感染が相次いでいる。高齢者は重症化・死亡リスクが高いため、自主的に休業するところも増えている。厚生労働省によると、自治体からの要請や事業者の判断などで休業する事業所（通所型、短期入所型）は、4月20日時点で約860か所に上る。事業所数全体から見れば1割程度だが、サービス提供時間を減らすなど業務を縮小している事業所は多数に上るとみられる。

「介護崩壊」も現実味

◆介護事業所の休業状況（通所・短期入所型、4月20日時点）

休業理由	休業数
感染防止のため（都道府県等からの要請による）	2
感染防止のため（事業者の自主判断による）	843
人手不足になったため（学校等の休業に伴う）	13
計	858

（厚生労働省調べ）

通所型の施設が休業した場合は、自宅で訪問介護を受ける代替策があるが、訪問介護は有効求人倍率が1.3倍という超人手不足職場だ。

4月10日に国に要請書を提出した訪問介護事業者の一つ、NPO法人「暮らしネット・えん」の小島里代表理

「医療崩壊が叫ばれるまで」

「医療崩壊が叫ばれるまで」















・BCP一何が必要か考えることから始まるが、考えすぎず、踏み出して、進化させる。

クラスター発生直後、施設の周囲は数えきれないテレビカメラと大挙して押しかける記者、上空にはけたたましくヘリコプターが飛び交い、テレビをつけると何週間にもわたって同じ映像が垂れ流され何も改善していないかのような印象を与えられました。そんな中、コロナが原因で一人も退職者が出なかった。修羅場を乗り切り早期に再開出来た要因は、信頼できる職員(仲間)が揃っていたからです。

普段からチームワークや多職種共働、部署間連携を培う運営に力を注いで来ました。

他部署同士でも助け合う必要性を共有してきました。集団感染においては、実際、別法人からの応援は、仕組みがあっても機能しません。先ずは、法人内で連携できる仕組みが大切です。

不安のある事業所は、組織改革を進める必要があると思います。最初は反対する人が出て来ますが、BCPには不可欠だと思います。

## ・最後に

発生直後、情報を全てオープンにすること、給与も保証することを宣言しました。

そして、職員家族にまで及んだ誹謗中傷に、できる限り一人一人と向き合い耳を傾けました。

**未曾有の集団感染で何より必要なものは、、、『人』**

その裏付けにはキャッシュも必要です。実際、大型修繕に充てる予定の資金を使い果たしました。

実は、理事長自身が感染し重篤な症状で入院してしまっていました。代表者不在では、緊急融資も受けられずキャッシュが無ければ八方塞になっていたかもしれません。

技術的には、様々な感染防止対策も講じてきましたし、環境整備はオゾン空気清浄機も増設したり、4人部屋の個室化も計画しています。これらは、それなりの費用が掛かりますのでどこまでやるかはトップ層が決断する問題です。

人の問題もしかりですが、職員一人一人が強い思いを持つことで出来る事があるはずですよ。

自分たちで出来る対策は何か、考え行動する。実はそれが一番大切な感染対策のBCPではないでしょうか。